

# 千葉商工会議所景気動向調査

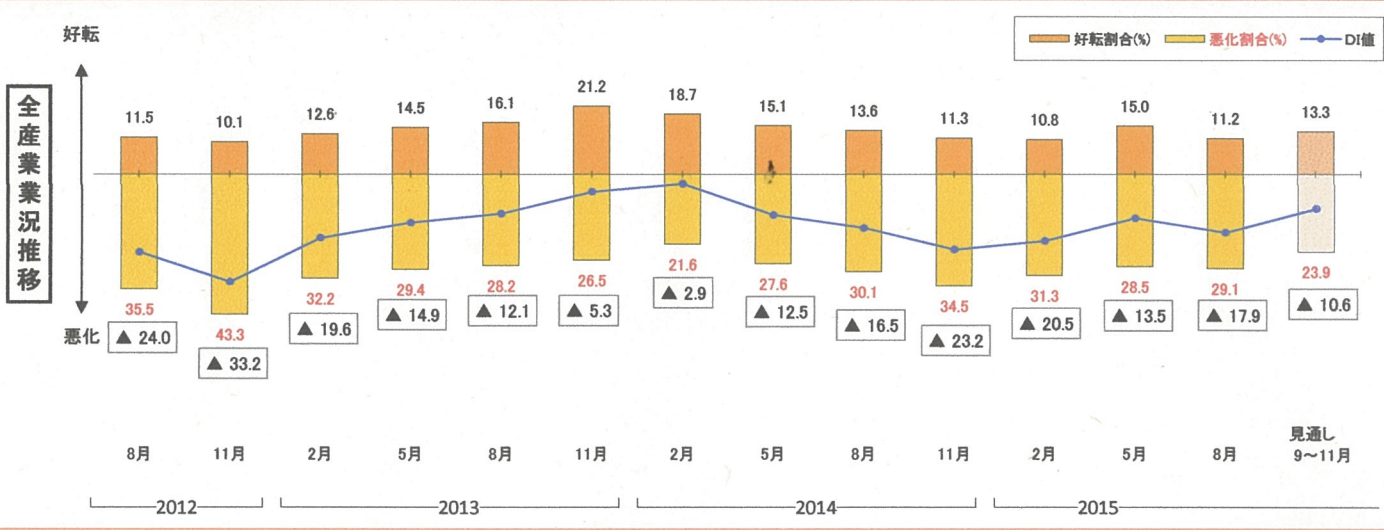
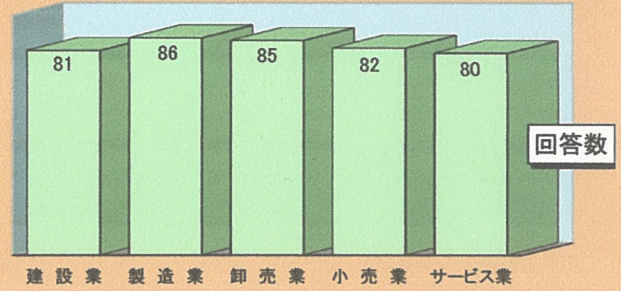
……平成27年8月期調査結果報告……

調査期間：平成27年8月10日(月)～8月24日(月)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社  
(回答 414社 回答率 82.8%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。  
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



## 【全体的特徴】

(▲はマイナス)

業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成27年5月、以下同じ)と比較して、製造業が上昇したものの、他の4業種で下降した結果、全産業合計DIは4.4ポイント下降して▲17.9となり、3期ぶりの悪化となった。また、向こう3ヶ月(9月～11月、以下同じ)の先行き見通しは、サービス業で下降する見通しであるものの、他の4業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より7.3ポイント上昇の▲10.6となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、製造業で上昇したものの、建設業・サービス業で横ばい、卸売業・小売業で下降した結果、全産業合計DIは2.3ポイント下降して▲11.7となり、2期ぶりの悪化となった。一方、向こう3ヶ月の先行き見通しは、サービス業で下降する見通しであるものの、他の4業種で上昇する見通しとなっており、全産業合計DIは現状より9.0ポイント上昇の▲2.7となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、建設業は横ばい、卸売業およびサービス業で下降、製造業および小売業で上昇した結果、全産業合計DIは0.6ポイント上昇の▲17.6となり、3期連続の改善となった。また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、サービス業では横ばい、小売業では下降する見通しであるものの他の3業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より2.9ポイント上昇の▲14.7となっている。

全体を総括すると、業況が好転と回答した企業が減り、悪化と回答した企業はほぼ横ばいとなり、景況感は3期ぶりに悪化となった。仕入単価DIは2期ぶりに改善したものの、依然として仕入単価は高水準で推移している。従業員DIは前回調査から横ばいで、人手不足が解消されていないことが伺える。資金繰りDIは3期ぶりに悪化となり、資金繰りが悪化している企業が増えている。

## 【業種別特徴】

### ・建設業

前回調査と比較して、業況DIは6.4ポイント下降して▲9.9に、売上DIは0.4ポイント下降して▲6.2に、採算DIは0.4ポイント上昇して▲11.1となった。業況DIは3期ぶり、売上DIおよび採算DIはほぼ横ばいとなった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIともに現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「仕事があっても人が不足。若者がなりたがらない」「管工事業は職人不足」等依然として人手不足を訴える声があったほか、「資材の値上げが企業活動の大きな不安要素となる」「受注単価はやや上昇するものの採算は依然降下傾向」との声もあった。

【調査結果のポイント】 \* 景況感は3期ぶりに悪化。仕入単価の上昇、従業員の不足傾向が続く。

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧ください。  
<http://www.chiba-cci.or.jp/>

# 【全産業】

## ・製造業

前回調査と比較して、業況DIは9.6ポイント上昇して▲8.3に、売上DIは9.5ポイント上昇して▲7.2に、採算DIは6.1ポイント上昇して▲15.3となった。業況DIは6期ぶり、売上DIは2期連続、採算DIは5期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIともに現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「仕事総量の減少に伴い、同業社間の競争が激化している」「仕入単価の上昇を製品価格に反映させることについて、理解してもらえない」といった声があった。また、「これから少しずつ回復していく兆しはある。後半に期待」との声もあった。

## ・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは10.9ポイント下降して▲30.1に、売上DIも8.3ポイント下降して▲17.9に、採算DIも4.3ポイント下降して▲22.6となった。業況DIおよび売上DIは2期ぶり、採算DIは3期ぶりの悪化となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、売上DI、採算DIともに現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「中国経済の停滞に伴い、ますます安価での輸出攻勢が続く、先行きの厳しい状況」「景気が良くなる要素が見当たらない」との声があった。

## ・小売業

前回調査と比較して、業況DIは5.7ポイント下降して▲31.7に、売上DIも12.7ポイント下降して▲27.5に、採算DIは3.7ポイント上昇して▲23.5となった。業況DIは4期ぶり、売上DIは2期ぶりの悪化となり、採算DIは3期連続の改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、売上DIは上向くが、採算DIは下向くとの見方になっている。

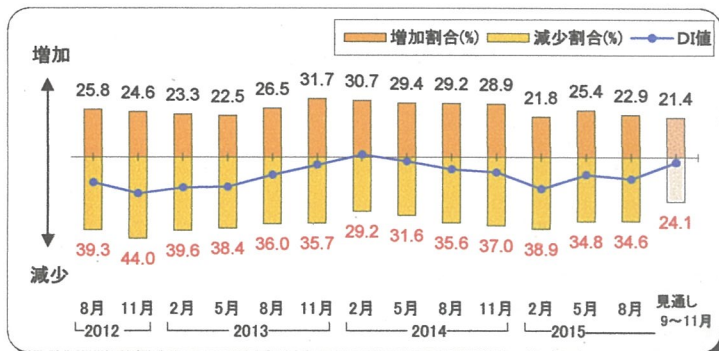
調査回答企業からは、「猛暑の影響で年配者の来店が少なく、買い物も慎重でバーゲンも振るわなかった」「業界内で厳しい戦いが続いている」との声があった。また、「すぐにでも何人か雇用したいが、資金的な余裕がない」との声もあった。

## ・サービス業

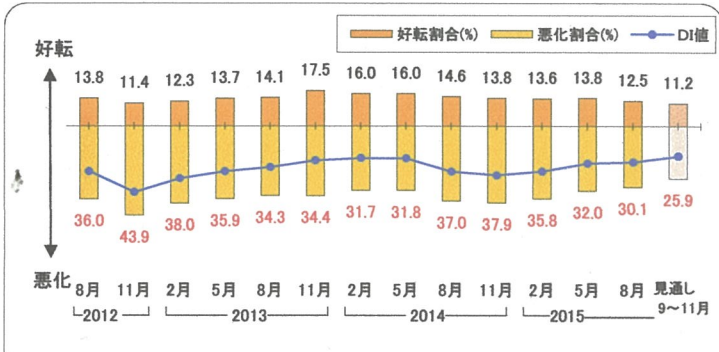
前回調査と比較して、業況DIは7.6ポイント下降して▲8.9に、売上DIは横ばいで0.0に、採算DIは2.8ポイント下降して▲15.4となった。業況DIおよび採算DIは3期ぶりの悪化となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIともに現状より下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「景況感が上向いている実感はない。仕事を受注するために価格競争に巻き込まれている」との声があった。また、「最低賃金の上昇は中小企業にとって大きな痛手。事業存続にかかわる」との声もあった。

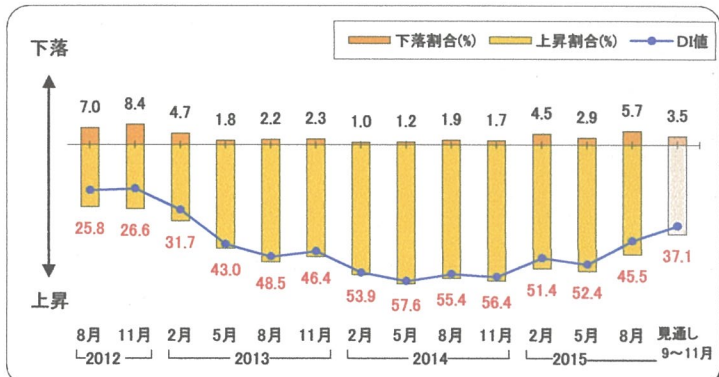
### 売上推移



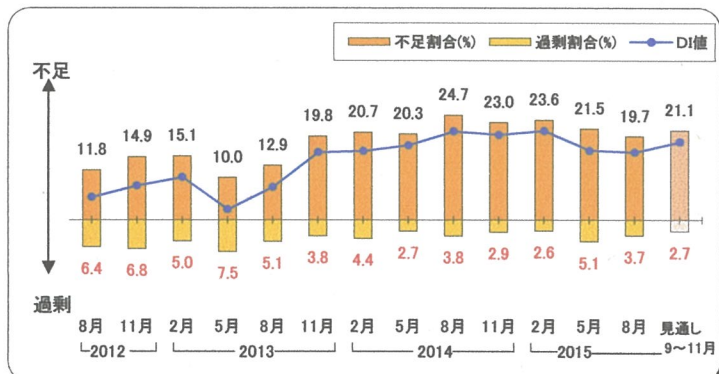
### 採算推移



### 仕入単価推移



### 従業員推移



### 資金繰り推移

